

人工針葉樹林によって隔離された広葉樹林における ブナ科堅果の動物散布検出の可能性

石田 健・大手芳裕（東大・農生命）

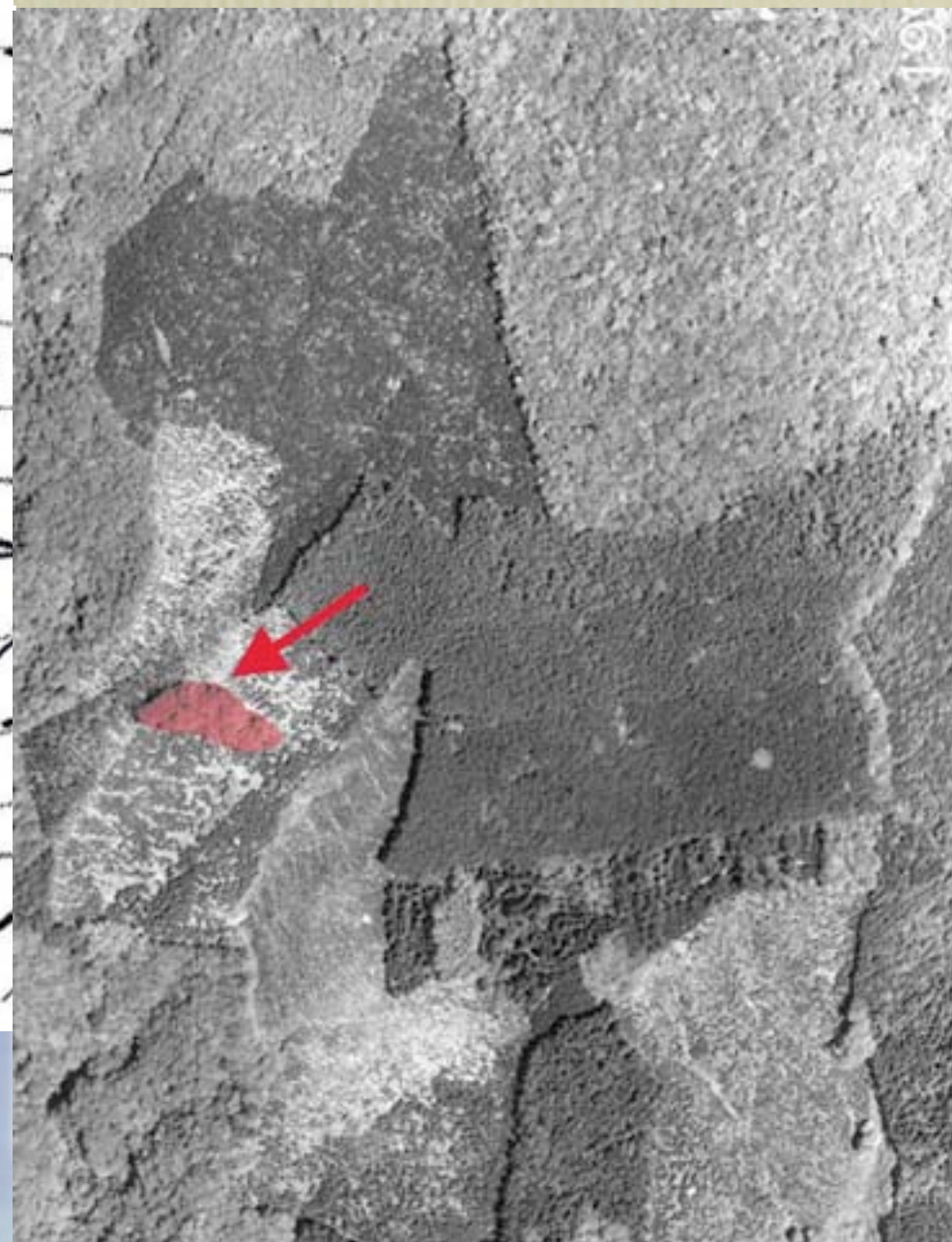
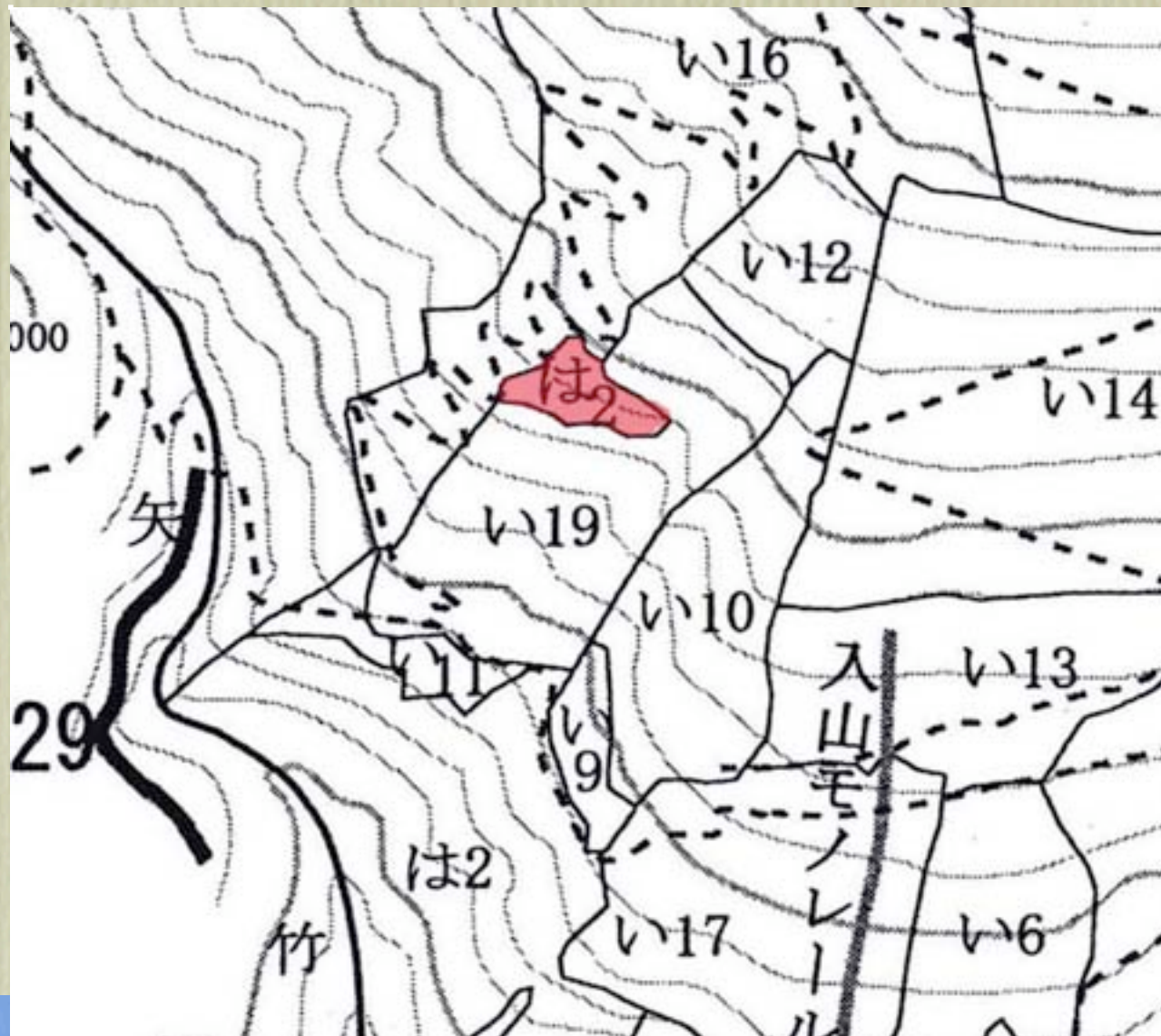


目 的

- ・ ミズナラの重力散布を分析し，基本的（重要な・考慮すべき）なパラメーターを明らかにする
- ・ 重力散布との差分として，動物散布の寄与率や寄与する状況を明らかにする．あるいは，その方法を提示する．

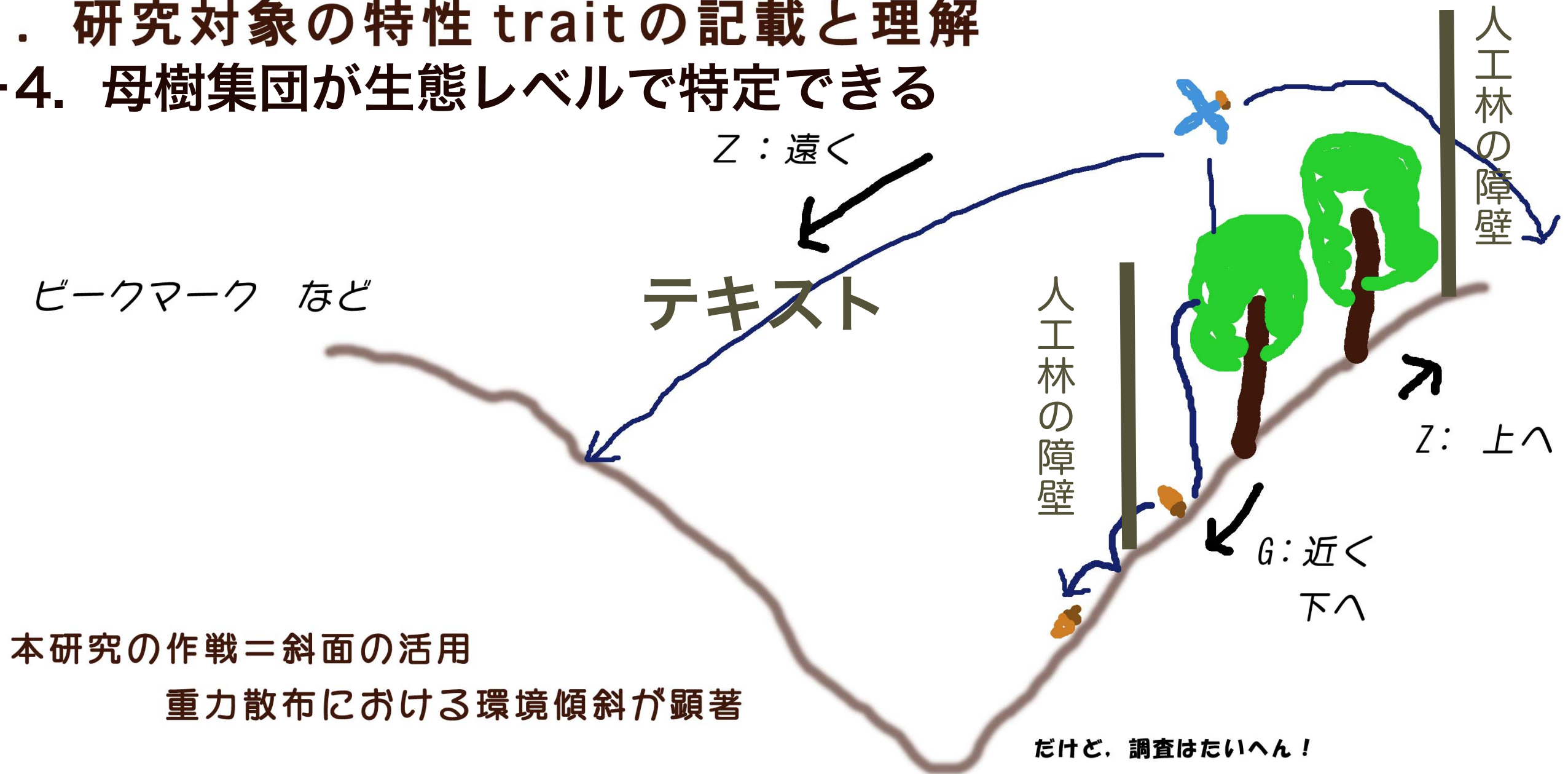
研究全体の方法

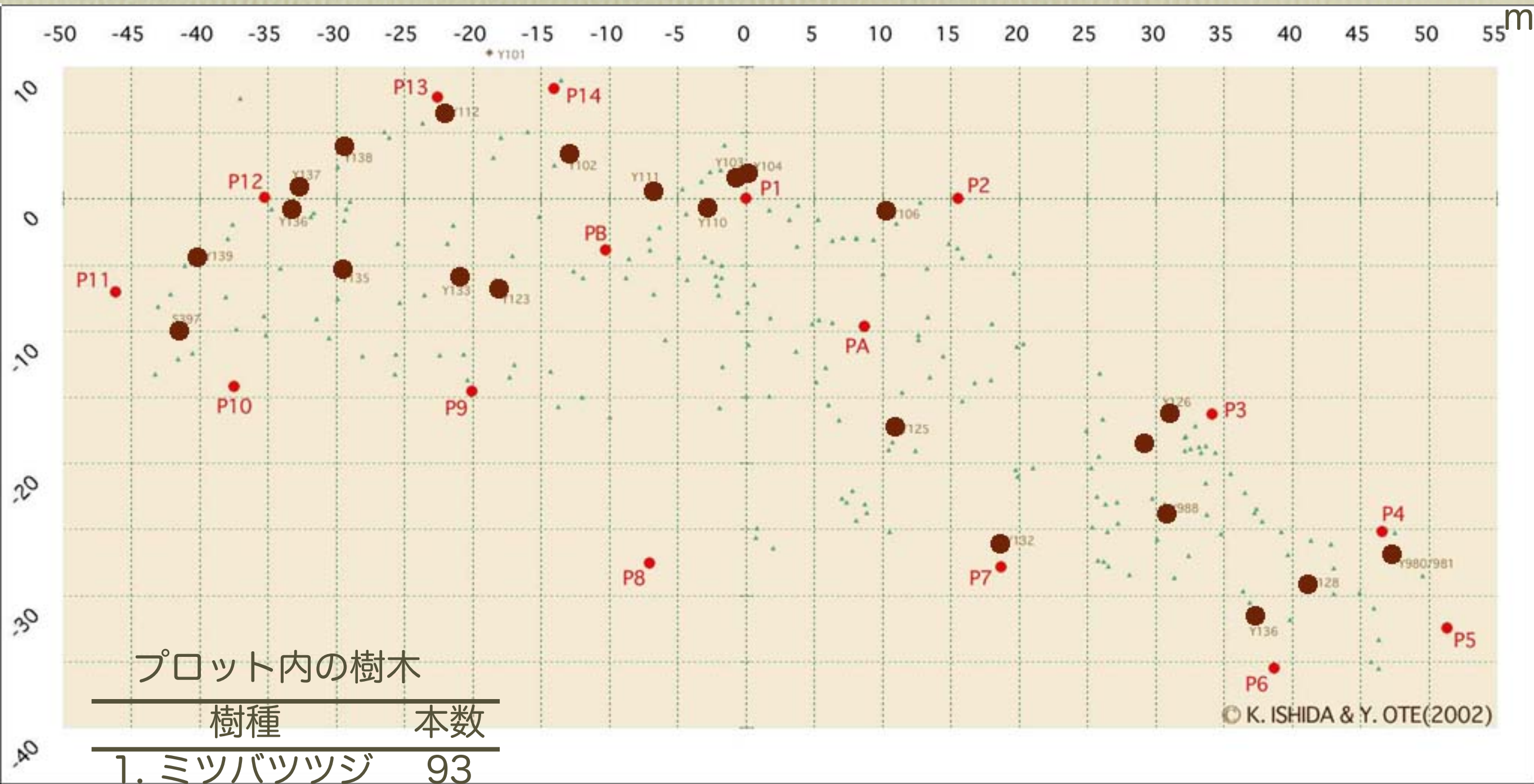
- 長大実生トランセクトによる実生動態の把握(昨年発表)
- ●孤立林分を利用した， 散布様式の分布
(今回発表)
- 遺伝マーカーを用いた， 地域個体群の空間構造解析
- 動物の行動観察



本研究の当面の課題：

1. 事象検出に最適な空間的・時間的スケールの
2. 動物散布と重力散布の差異の検出に適切な観察手法の確認
3. 研究対象の特性 trait の記載と理解
- +4. 母樹集団が生態レベルで特定できる



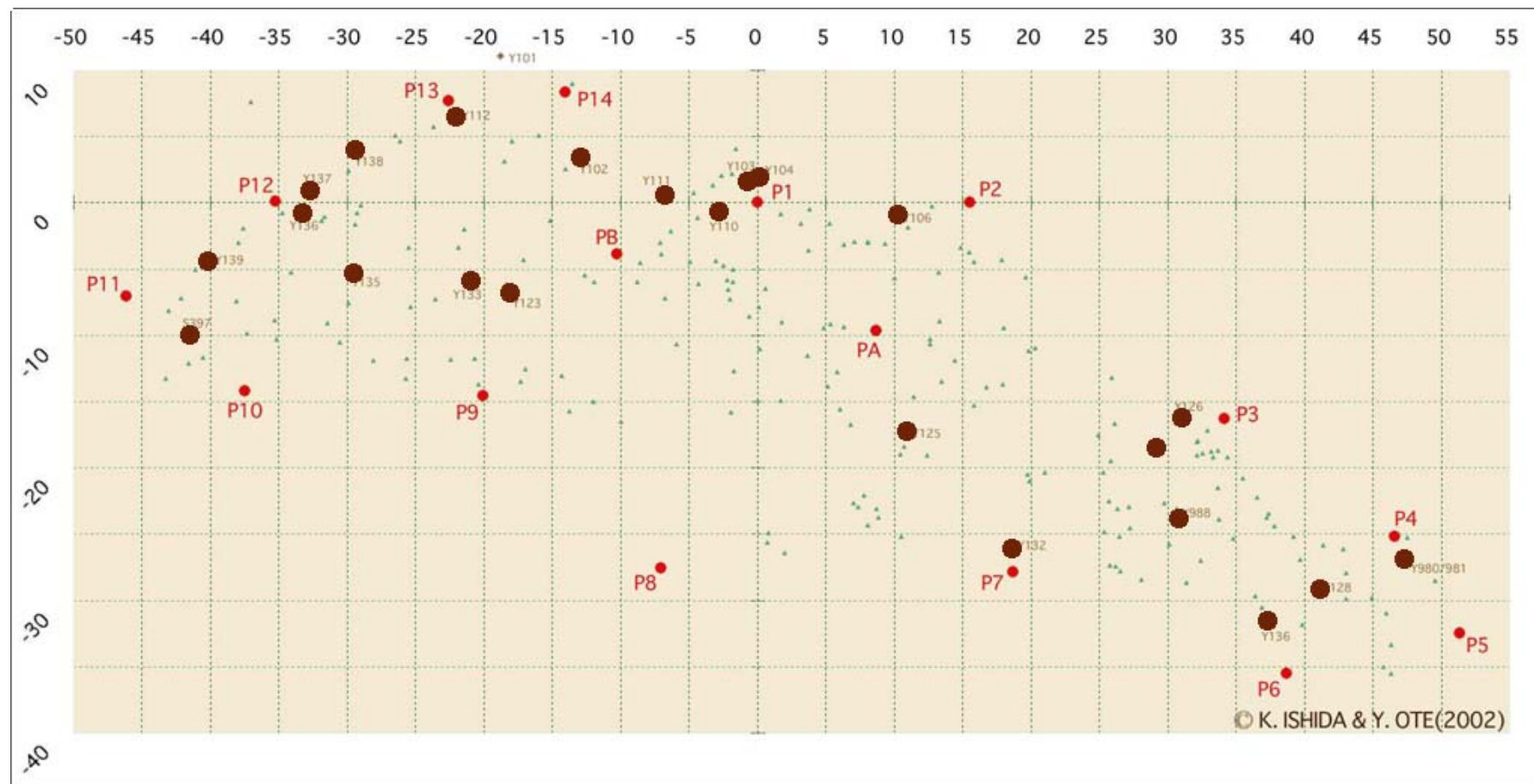


● ミズナラの成木の位置図

プロットの樹冠範囲

プロット周辺の実生・幼樹
分布範囲





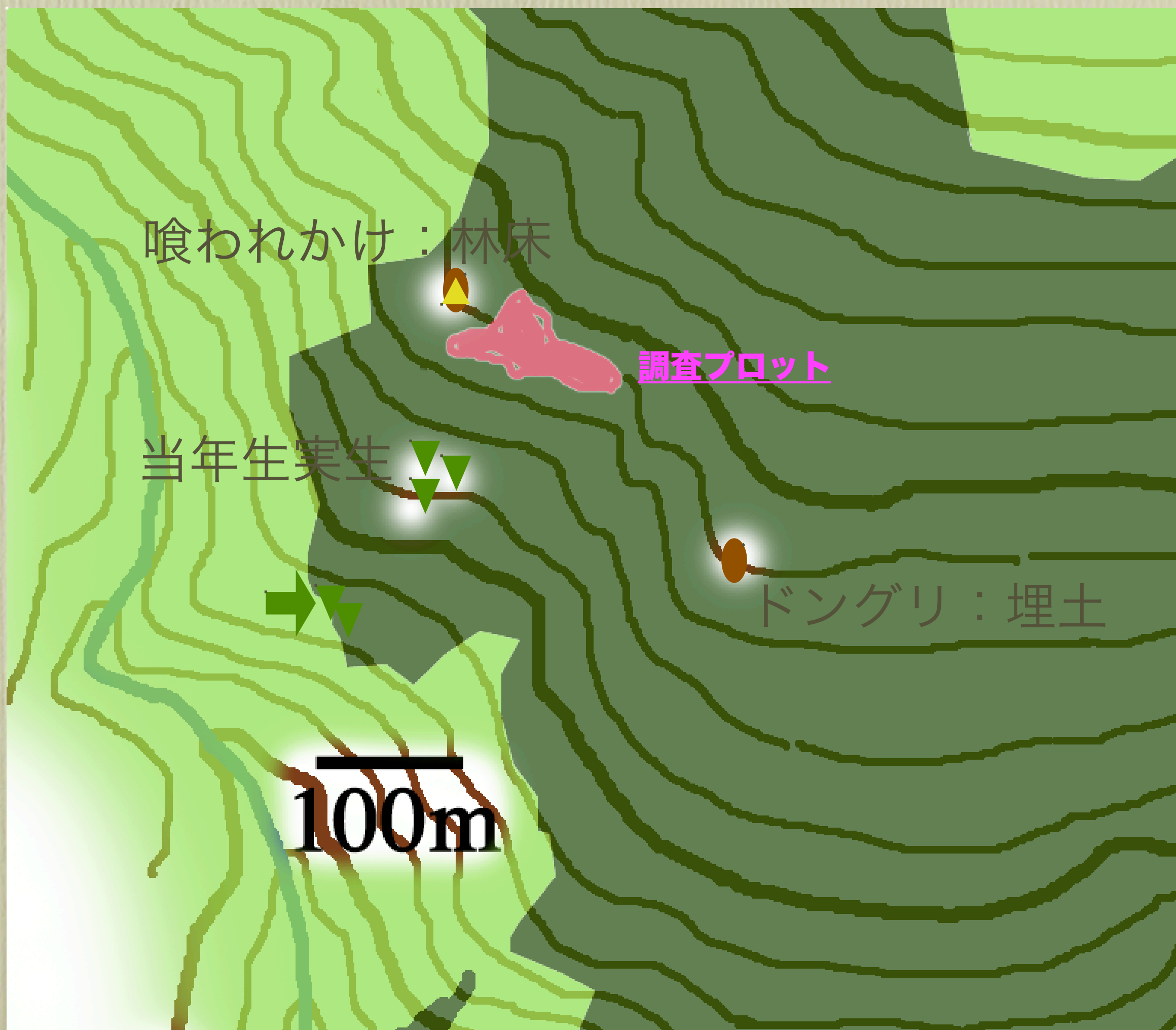
喰われかけ：林床

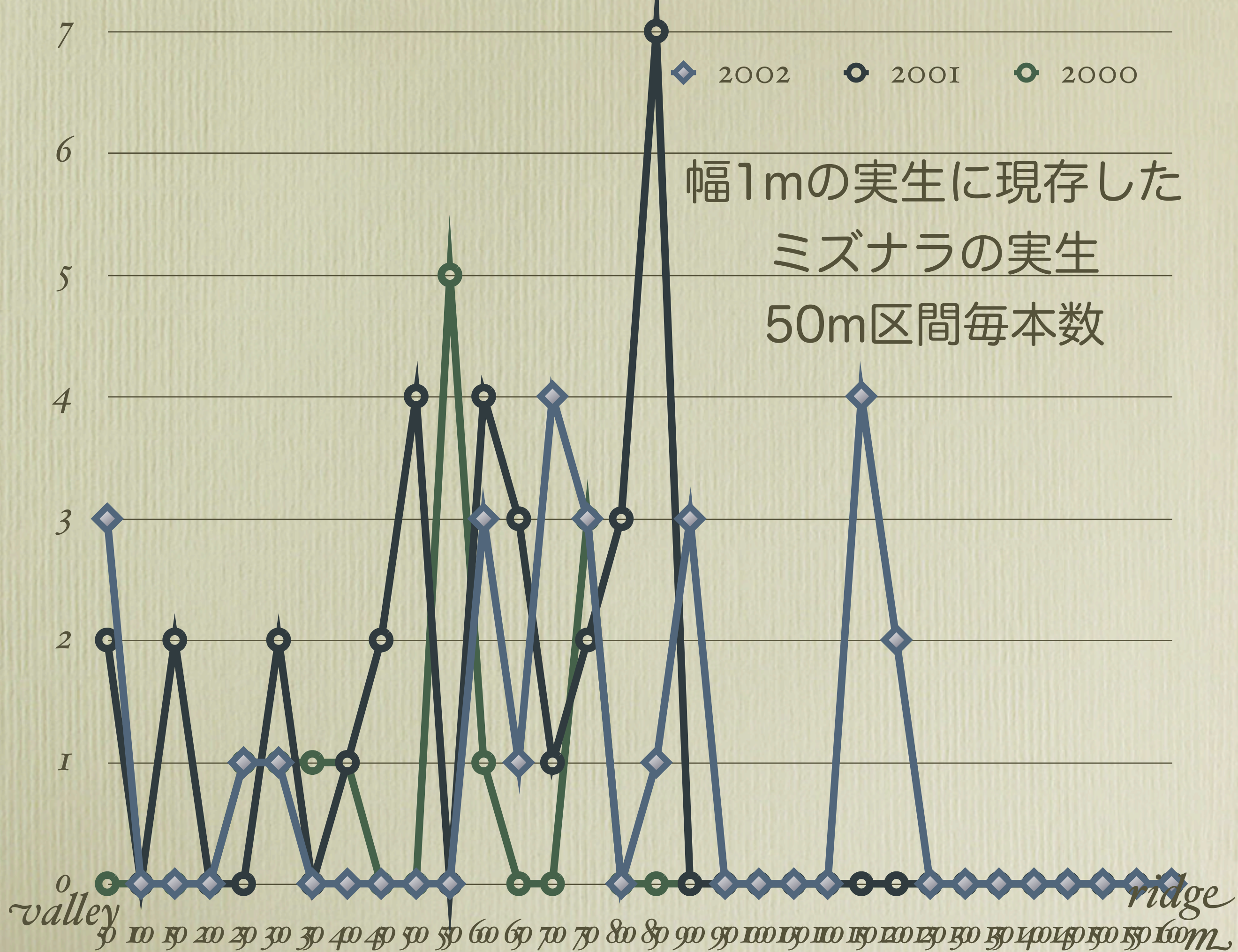
調査プロット

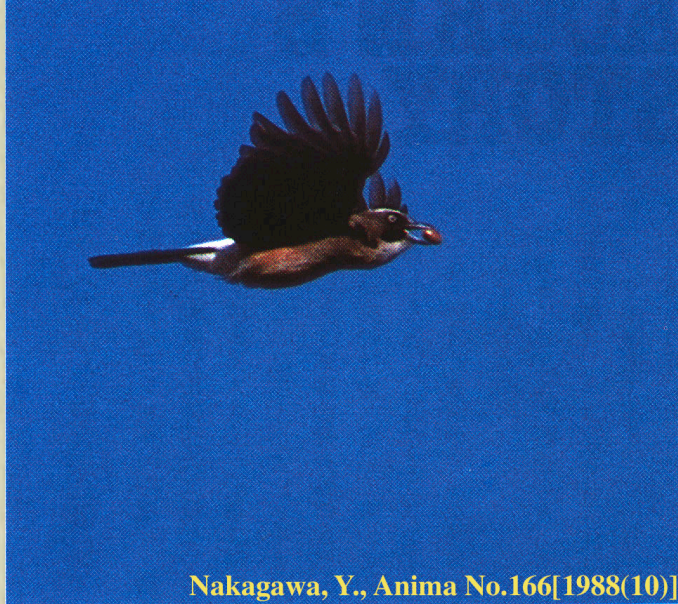
当年生実生

ドングリ：埋土

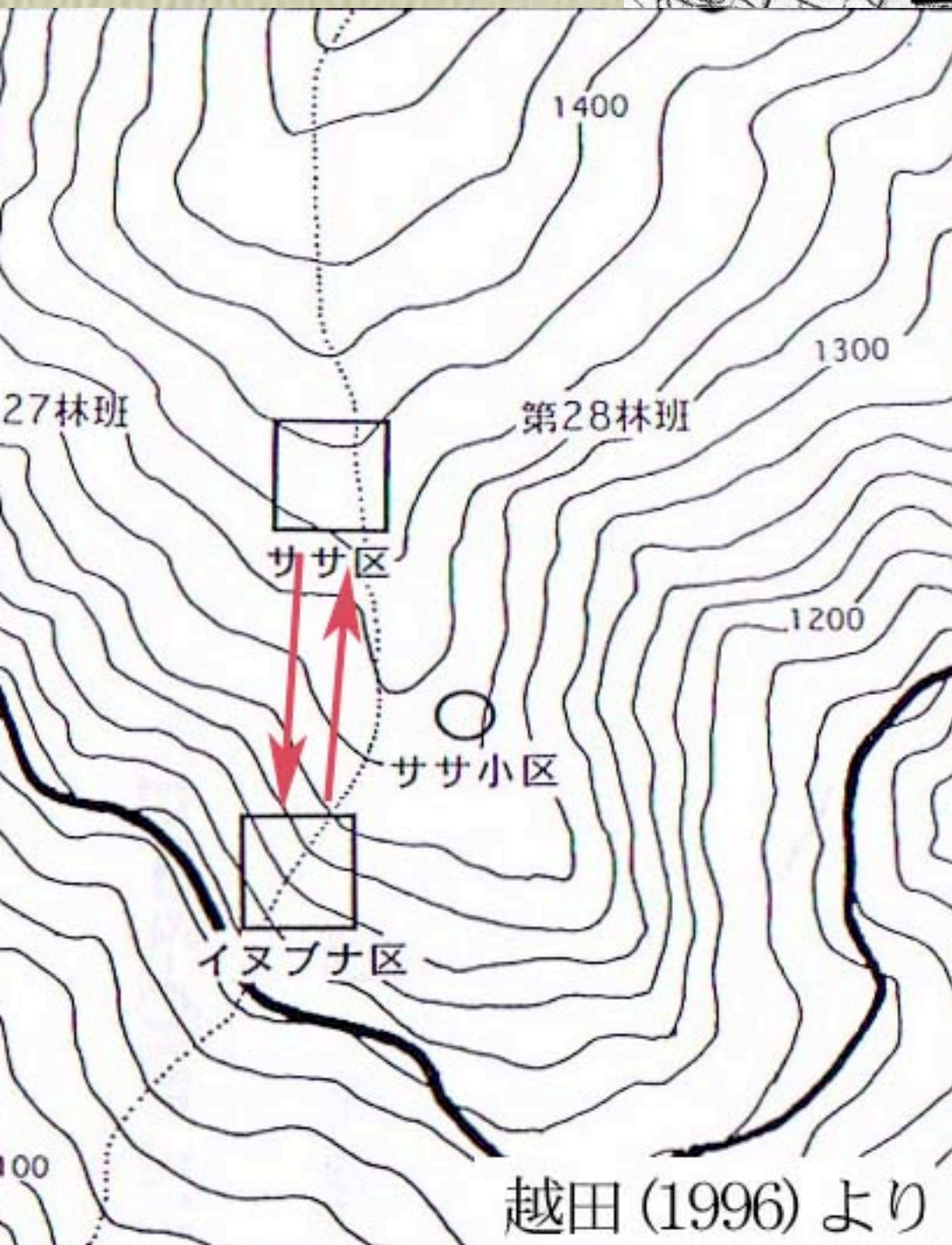
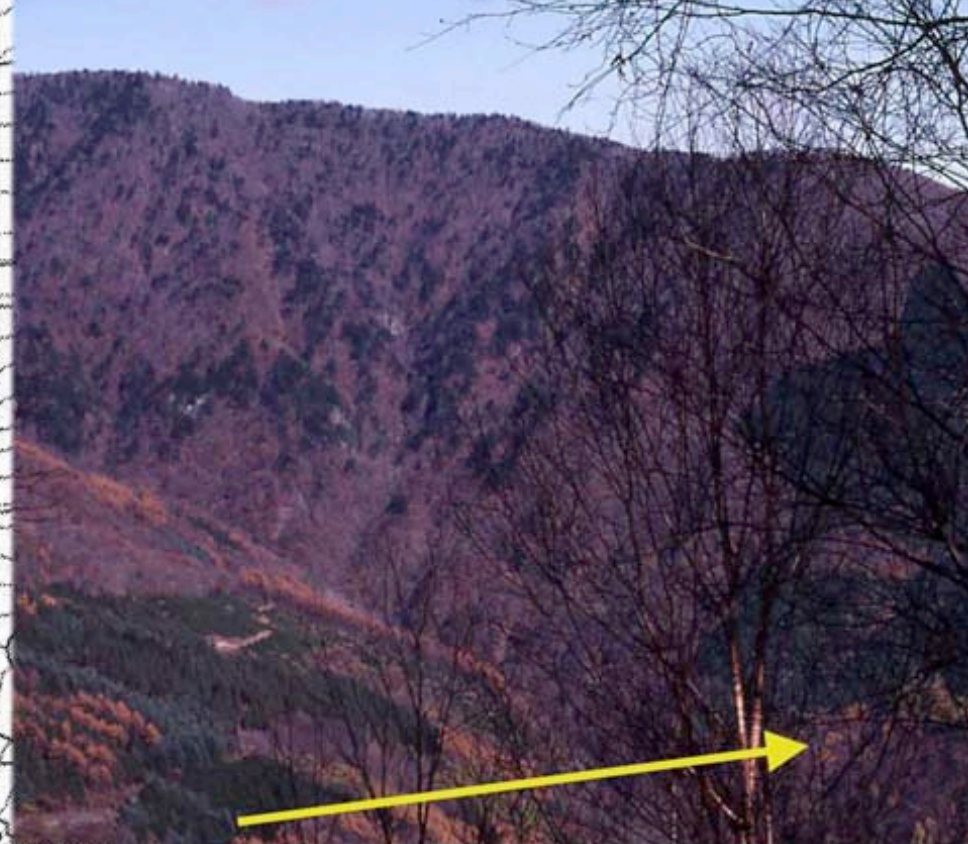
100m







Nakagawa, Y., Anima No.166[1988(10)]



日本動物大百科 1



2002.6.5 入川LTE

結 論

- 動物散布実生の発見確率は低い
- このスケールで動物の重要度は低いだろう
- このプロットでは重力散布を把握スル
- 動物散布は，長大実生トランセクトおよび大面積プロットで，実生中心に
- カケスの行動観察を生かし，サンプリングと遺伝分析